



マラソン大会 頑張りました！

今日のマラソン大会は、天気予報もコロコロと変わり、判断を迷いましたが、子どもたちに怪我もなく、何とか予定通り実施できて良かったです。応援に来てくださった保護者の皆様、小雨の降る中ありがとうございました。

昔ながらの精神論のイメージもあり、苦手、嫌いと感じる子も多い持久走ですが、体育の学習の中では、「体づくりの運動遊び」「体づくり運動」に位置づけられていて、無理のない速さで、低学年は2～3分、中学年は3～4分、高学年は5～6分程度かけ足を続けることが例示として示されています。子どもによってそれぞれ得意不得意分野があるので、様々な活躍の場があるのは自己肯定感を育む上で大切なことだと思っていますが、マラソン大会は、特に遅い速いの差がハッキリと見えてしまうことや、みんなに応援してもらうことが嬉しい子もいれば嫌な子もいる、競争することが必要なのか？と、実施については賛否分かれるところです。

マラソンは大人になると競技人口750万人を超える人気のスポーツに変化します。なぜだろうと考えると、道具もいらず、一人で、健康のためだったり、自己記録をめざしたりして自分のペースでできる。そして走り終わった後の達成感も味わえるためなのだろうと思います。一方、学校での持久走は、走る時間や距離が決められていて、全員が同じ土俵で行うので、やらされ感が募ってしまうのかなとも思います。生涯体育につなげるには、運動嫌いな子にはなってほしくありません。学習も個別最適が求められる時代です。学校体育も個別最適な学習にするにはどうしたらいいのか、考えなくてはならないと個人的には思っています。

子どもたちは、これまでの業間マラソンや体育も含め、精一杯頑張りました。今日も参加者全員、最後まで走れたことは本当に素晴らしく、達成感も味わえたと思います。これは全員で行った良さです。個別と協同どちらも大切です。子どもたちと考えたいと思います。今日は、結果に関わらず、おうちでたくさん褒めてあげてください。

